

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2006年 1月 31日

I 概要

実践団体・担当者名	高知県立高知東高等学校（担当者：谷内 康浩・小川 晴美）	
連絡先	高知県高知市一宮徳谷23-1 電話088（845）5751	
プランタイトル	兵庫県と高知県の高校生による防災ワークショップ&フィールドワーク	
目的	全国で唯一「環境防災科」を設置し、自然災害について専門的に学んでいる兵庫県立舞子高等学校の高校生を招いて、これから南海地震を経験する可能性のある高知の高校生どうしが、「防災」について考え、何ができるかを話し合うとともに、お互いの友情を深めあいます。	
プランの概略	2005年8月2日（火）～3日（水） 8月2日（火曜日） 12:30～ 受付 13:30～14:00 開会式 14:00～17:00 ワークショップ （概要）高知と兵庫の住むところの違う高校生どうしが、これまでの体験を踏まえ、話し合いをとおして自然災害についての認識を深め、高校生として何ができるかを考え、壁新聞にまとめ発表し合う。 17:00～19:30 夕食準備・交流会 8月3日（水曜日） 8:30～ 受付（高知東高等学校） 8:40～14:00 フィールドワーク （案内：高知大学理学部教授 岡村 眞さん） （概要）◎土佐市宇佐地域 宇佐は、1707年の宝永、1854年の安政、1946年の昭和の南海地震で繰り返し津波の被害に遭っています。その史跡を訪ねるとともに、住民主体の津波対策をすすめる地域の取り組みを聞く。 講師：宇佐地区町内会連合会事務局長 山本幸一郎さん ◎桂浜（昼食）県立坂本龍馬記念館の「幕末の大地震展」の見学 防潮堤などの観察を行う。 ◎五台山展望台 高知市内を一望し、昭和の南海地震で浸水した区域を、当時の写真と比較する。 14:30 解散	
プランの対象と参加人数	全校生徒および高知市内公立高校へ参加を呼びかける	
実施日時	2005年8月2日（火）～3日（水）	
主な実施場所	（1日目）高知県立高知東高等学校、（2日目）土佐市宇佐 他	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①高知県立高知小津高等学校（SSH） ②高知県高等学校教育研究会理科部会 ③高知県観光コンベンション協会
	連携したきっかけ・理由	①SSHの企画として、フィールドワークを予定していたため。 ②県内の理科教員の研修の機会とするため。 ③高知県観光のPR

	連携団体への アプローチ方法	①②③以前から面識がある。
	連携団体との 打合せ回数	① 3回 ② 1回 ③ 1回
	連携団体との役割分担	①②それぞれ、参加者の確保 ②観光パンフレットの配布、鳴子の貸し出し

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	3名（兵庫県立舞子高等学校・高知小津高校）
	主なメンバーの 役職・役割	○高知県立高知東高等学校 校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名） ○兵庫県立舞子高等学校（2名） ○高知小津高校（1名）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2005年5月 ～ 6月
	立案時間	1時間×2回（校内） 1時間×2回（校外）
	上記のうち打合せ回数	4回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○夏場であり、無理な日程とならないこと、食中毒が発生しないように食事に注意すること。 ○高知県内、県外両者が有意義に研修できるフィールドワーク場所の選定 ○舞子高校の生徒に、高知県のことを知ってもらうための手だて（1日目の夜に、よさこい踊りの練習に参加するメニューを入れる）	
プラン立案で 苦労した点		

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	3名（兵庫県立舞子高等学校・高知小津高校）

	主なメンバーの 役職・役割	○高知県立高知東高等学校 校長（１名） 教頭（２名） 事務長（１名） 教諭（６名） 実習助手（１名） ○兵庫県立舞子高等学校（２名） ○高知小津高校（１名）
準備に要した日 数・時間	準備期間	２００６年６月～７月
	準備総時間	２時間×３回（ガイドブック作成） １時間×３回（打合せ）
	上記の内打合せ回数	３回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	高知市内の公立高等学校
	どのように働きかけたか	参加の依頼状・参加者募集のポスター送付
	結果	高知小津高校からの参加にとどまった
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・ＰＴＡへ の働きかけ	働きかけた保護者・ ＰＴＡ組織名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	機材：液晶プロジェクター、スクリーン、パソコン、アンプ付 スピーカー（ワイヤレス）
	入手先・入手方法	機材：校内で調達
	機材・教材選定の理由（な ぜこの機材・教材を選ん だのか）	機材：発表やフィールドワークで利用するため。
参加者の募集	募集方法	○校内 ・ホーム担任や校内放送を利用しての参加の呼びかけ ・校内・各教室に募集のポスターを掲示 ○高知市内の公立高等学校 ・参加の依頼状・参加者募集のポスター送付
	募集期間	２００５年７月６日 ～ ７月２９日

	参加予想人数	100名
	実際の参加人数	(生徒) 校内33名、高知小津高校5名、舞子高校43名 (教職員) 校内7名、高知小津高校3名、舞子高校2名 他5名 ※校内準備には、家庭科の教員を含め、多数かかわった。
	募集方法の成功点	○舞子高校は、バス定員満席をめざして取り組んでくれた。
	募集方法の失敗点	○高知市内の公立高校への募集案内は、もう少し早く行えば良かった。
準備で苦労した点・工夫した点		○夏休み中でもあり、参加者確保に苦労した。 ○高知県の地域性を活かしたガイドブック作成の工夫 ○食事・寝具等の業者との連絡・調整に苦労した。

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月			
2005 1月			
2月			
3月			
4月			
5月	○5/31 第1回地震防災プロジェクト委員会で日程確認		
6月		○6/28 第2回地震防災プロジェクト委員会で実施要項の決定	

7月		○舞子高校、研修場所等との連絡・調整 ○参加者の募集 ○ガイドブックの作成	
8月			○8/2-3 ワークショップ・フィールドワークの実施
9月			
10月			
11月			
12月			
2006 1月			

V実践の詳細 【A. 素材】（メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45分			
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

Ⅴ実践の詳細 【B. イベント】（短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル	兵庫県と高知県の高校生による防災ワークショップ			
実施日	8月2日（火曜日）			
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	舞子高校・高知東高校の取り組み等を通して、お互いについて知る	「私と災害」をテーマにグループ討議をし、防災に対する共通認識をはかる。	「私と災害ボランティア」をテーマに討議し、災害ボランティアについて共通認識をはかる。	各班ごとに壁新聞を使って発表し、様々な意見があることを理解する。
生成物	●プレゼンテーションデータ ●DVD			●壁新聞
進め方 （箇条書き）	● 開会あいさつ ● 舞子高校の取り組み紹介 ● 高知東高校の取り組み紹介（放送コンテスト応募作品） ● 班分け ● 部屋へ移動	● 司会を決める。 ● 自己紹介 ● 「私と災害」について討議し、模造紙に壁新聞としてまとめる。 ● 休憩	● 「私と災害ボランティア」について討議し、模造紙に壁新聞としてまとめる。 ● 2枚の壁新聞を完成させる。 ● 休憩	● 各班ごとの発表 ● 教員によるまとめ
ツール （特別に用意したもの）	● 液晶プロジェクター ● スクリーン ● ラジカセ	● 模造紙 ● マジック（12色）	● 模造紙 ● マジック（12色）	
場所	集会室	集会室 図書室	集会室 図書室	集会室

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】（継続的な学習を 45 分を 1 コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45 分	45 分	45 分	45 分
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

VI実践後

参加者への アンケート結果	参加者の感想文よりまとめ 地震を経験した者とそうでない者とは交流したり、過去の被災地をフィールドワークをする中で、災害を実感することができ、防災に対する意識が高まった。	
成果として 得たこと	○交流・フィールドワークにより防災意識を高めることができた。 ○2004年夏に実施した舞子高校訪問による交流の中で対話した生徒どうしの再会が実現し、さらに交流が深まった。 ○1年生は出身中学校での防災教育を動機付けとして、今回、積極的に参加できた。 ○報道で大きく取り上げられたことは、生徒の自信につながった。	
成果物	(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。) ○実施要項 ○募集ポスター ○ガイドブック ○新聞記事 舞子高校との交流についてのNHK高知放送局ニュース番組(VTR6分)	
広報方法	広報した先	報道各社(教育記者室)
	広報の方法	教育記者室への投げ込み
	取材にきたマスコミ	○テレビ(NHK・高知放送・テレビ高知・さんさんテレビ) ○新聞社(高知新聞・朝日新聞・毎日新聞・読売新聞)
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	○当日のテレビニュースおよび翌日の新聞で報道 ○NHKは高知版で2日間をまとめてレポート報告 ○高知新聞は、夕刊の高知地震新聞で特集
	成功点	○話題性もあり、各報道機関が積極的に取り上げてくれた。
	失敗点	
全体の感想と 反省・課題	○震災を経験した者、これから経験するかもしれない者どうしが交流することにより、お互いの災害への備えや災害時の行動についての違いに気づくことができた。このことは、単に話を聞くだけでは得られない、自分のこととして考えるきっかけとなった。 ○津波災害についてのフィールドワークは、過去の被害の話から、その恐ろしさを知るだけでなく、地元住民が南海地震に備えて、自らが対策している姿を直接見聞することで、地域独自の方法があることを理解でき、自らの備えを考える機会となった。 ○舞子高校生と東高校生の意識のギャップにとまどう部分も見られたが、お互いがフォローしあえた。	
今後の予定	来年度以降の進め方	○バス代が確保できれば、継続した交流を行いたい。
	是非実施してみたい 取り組み	○高知県内の高校生と舞子高校との交流イベント

自由記述